

生活習慣病による通院者率上昇など、国民生活基礎調査の結果が公表される

《背景》2022年の「国民生活基礎調査」の結果が公表された。同調査は、保健・医療・福祉・年金・所得等国民生活の基礎的事項に関する大規模な調査を3年ごとに実施している。具体的には、世帯数と世帯人員の状況や各種世帯の所得等の状況、世帯員の健康状況、介護の状況について調査されている。本稿では、世帯員の健康状況の調査における「通院の状況」の結果を中心に紹介する。

《解説》人口千人あたりの通院者の割合（以下、通院者率）は、2022年度は417.3と、3年前（404.0）よりも13.3ポイント上昇しています。

傷病別にみると、男女とも「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで男性では「糖尿病」、「脂質異常症（高コレステロール血症等）」、女性では「脂質異常症（高コレステロール血症等）」、「眼の病気」となっており、いわゆる生活習慣病による通院者が上位を占めていることがうかがえます（図表1）。

また同調査「介護が必要となった主な原因」では、要支援者および要介護者の総数において「認知症」が16.6%、「脳血管疾患（脳卒中）」が16.1%、「骨折・転倒」が13.9%と、ここでも脳卒中など生活習慣病が上位を占めていることがわかります（図表2）。

◎図表1：性別にみた通院者率の上位5傷病（複数回答）



注：通院者には入院者は含まないが、通院者率を算出するための分母となる世帯人員には入院者を含む。 *：脂質異常症（高コレステロール血症等）

◎図表2：介護が必要となった主な原因（上位3位）

現在の要介護度	第1位	第2位	第3位
総数	認知症 16.6%	脳血管疾患(脳卒中) 16.1%	骨折・転倒 13.9%

出典：2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況「概況全体版」図表17、18を基に加工・作成
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>

《発行》
アステラス製薬株式会社
 東京都中央区日本橋本町2-5-1 〒103-8411

《内容についてのお問い合わせ先》
医療総研株式会社（担当：Mesa編集室）
 東京都渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ8F 〒151-0002
 Mail: mesa.info@iryo-soken.co.jp